



2009年1月29日(木)

H20年度地球研谷口P 「都市の地下環境に残る人間活動の影響」PR会議

「物質班計画-4年目-」

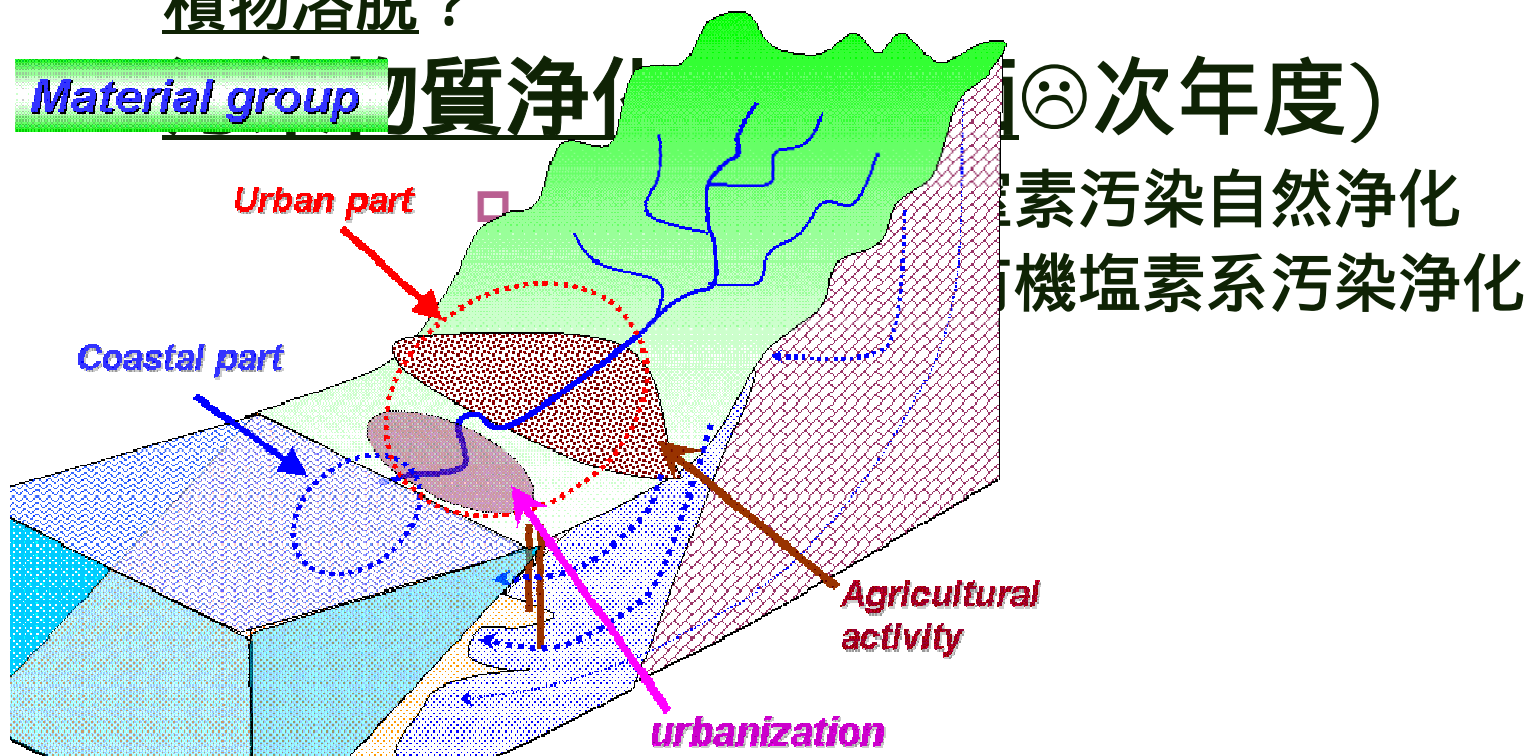
小野寺真一

Hiroshima University
広島大学



目的

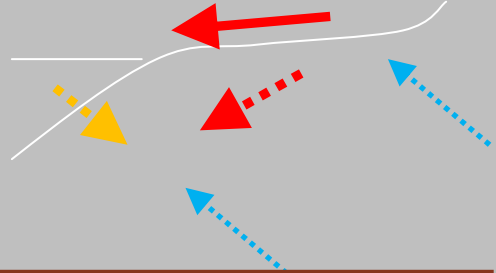
- 都市化にともなう多様な汚染物質の負荷量の変化：地下貯留(不飽和帯, 地下水)と沿岸堆積物に貯留 負荷量(窒素, 有機物, 重金属, 塩分)変動の復元
- 海洋への輸送(汚染の遅れ・継続)：地下水寄与or堆積物溶脱?



地下・海洋環境と都市化の関係モデル (物質班的ゴール)

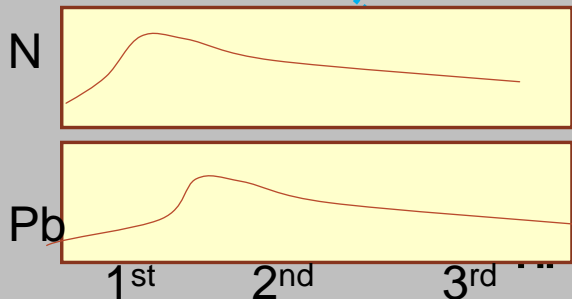
自然

1st都市化(ジャカルタ、マニラ)

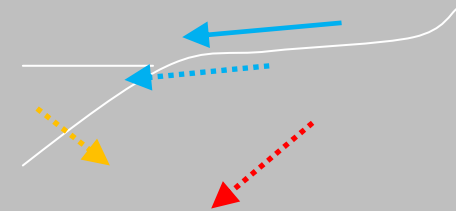


窒素: 堆積物, N2Ar
有機物・重金属: 堆積物
塩素: モデル(次年度)

2nd都市化(バンコク)



3rd都市化(台北、大阪)



@揚水影響により早い段階から地下水流出・栄養塩流出なし = !

@汚染物質の地下貯留・遅れ流出(現状:堆積物から)

@負荷機構へ 金子班との連携、流動との関係 水班と連携

N負荷量分布変動 金子班・GIS班と連携

H21 公表計画（物質班）

- 地球惑星5月
 - 「陸 海相互作用」:大阪3件(O, U, S)
- 陸水学会特集号 1号 2号へ
- IAHS 9月
 - 5件(O, H, U, S, S)
- 堆積物論文予定(H, U +)、地下水汚染論文予定(O +)、SGD論文予定(U, O)
- 特集号計画予定 年度末

次年度課題

- 塩水侵入: 既存データ整理、モデル解析 (中屋: 地下水、安元: 干潟)
- 窒素汚染復元: ガス分析
- 都市の発展にともなう汚染変動
 - 負荷量 (N, Pb): 雨・堆積物データから
 - 自然由来汚染物質 (N, Mn): 地下水データから
- SGDの季節変化評価: マニラ、バンコク、ジャカルタ、大阪
- 自然浄化機能の評価 (特にN: 収支として)

09体制

- メイン(調査/解析):

小野寺(広島大)、細野(秋田大)、清水(院生)

- 分析:

梅沢(長崎大)、竹田(広島大)、中野(地球研)

- 大阪:

梅沢(長崎大)、林(神戸大)、藤井(奈良教育大)、中屋(信州大)、中野(地球研)

- 補強要員:

齋藤(PD)、広大院生(加藤愛彬M1)